

群 教 ゼ	F 09 - 01
	平14.210集

互いに認め合い、進んで話し合える 学級づくりへの支援の工夫

－ 学級活動における ソーシャルスキルトレーニングをととして －

特別研修員 新井 奈緒子 （高崎市立豊岡小学校）

《研究の概要》

本研究は、聞く力・話す力等を高めるためのソーシャルスキルトレーニングを学級活動や短学活・学級会での実践に取り入れ、互いに認め合い進んで話し合える学級づくりを目指したものである。学級活動や短学活・学級会の繰り返しトレーニングで、スキルの定着化を図った。その結果、学級全体の信頼関係が増し、友達の意見を聞き入れ、自分の考えを進んで発言する児童が増え、学級会での話し合いが活発に行われるようになった。
【キーワード：教育相談 学級活動 話し合い活動 ソーシャルスキルトレーニング】

主題設定の理由

人間が社会生活を送っていく際に、自己を表現し他者の気持ちに配慮しながら、話し合っていくことはとても大切である。本学級の児童は、話好きな子が多いが、ささいな言動からのけんかが多く、その問題を自分たちで解決できず、担任に助けを求めにくることが少なくない。学級会では、自分の考えを進んで発表できるのは数人で、ほとんどの子は「言い方が分からない」等の理由から意見が言えず、話し合い活動が消極的なまま終わってしまいがちである。

これらの要因としては、この時期に必要とされるリレーション形成や自己表現・対人関係における問題解決に関するソーシャルスキルが、十分身に付いていないことが考えられる。そのため、社会的なスキルを高めるための具体的な方法として、ソーシャルスキルトレーニング（以下SSTと略す）を取り入れた活動を行い、支援していくことは意義深いと考えた。

SSTを行うためには学級の和やかな雰囲気づくりが必要であり、構成的グループエンカウンター（以下SGEと略す）の技法を取り入れる。その後、学級活動で相手のことを考えた話し方・聞き方等のSSTを行う。そして、学級活動との連携を図ったSSTを短学活で計画的に繰り返し行うことで、児童は「話す」「聞く」スキルを高め、互いを認め合い、自己肯定的な考えをもてるようになっていくと考える。これらの実践場面として、学級会という話し合い活動の場を設定する。この一連の体験をととして、児童は人の意見をよく聞き、自己表現できるようになり、進んで話し合える学級づくりができると考えた。また、学習指導要領第4章の特別活動の目標である「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことにもつながり、教育的な価値があると考えて本主題を設定した。

研究の見通し

- 1 SGEの技法を用いた簡単なエクササイズを行えば、楽しい学級の雰囲気ができ、人間関係が和やかになるであろう。

- 2 和やかな雰囲気ができただけ、学級活動においてSSTを行えば、児童が自分の言動をよく考えるようになり、自他に対する考え方や接し方に深まりが出るであろう。
- 3 短学活において、ショートSSTを繰り返し行えば、自他のよさを認め合う中で自己肯定感を身に付け、対人関係におけるソーシャルスキルの定着化を図れるであろう。
- 4 短学活でのソーシャルスキルの定着化を図った後、学級会での話し合い活動を行えば、和やかな雰囲気の中で互いに認め合い進んで自分の考えを言える学級になるであろう。

研究の内容及び方法

1 研究の内容

(1) 互いに認め合い進んで話し合える学級

日常生活において、互いに認め合い進んで話し合える学級とは、その場の状況や身の回りにいる友達の発言や行動等からその人の気持ちや考えを分かろうとし、自分自身の考えに基づいて適切な発言が進んでできる学級であると考え。

(2) 互いに認め合い進んで話し合える学級づくりへの方策

ア 指導をより効果的に行う学級の雰囲気づくりのために

望ましいSSTを行うためには、学級全体の人間関係が悪化している場合や対人関係における問題が発生している場合は、集団あるいは個々の人間関係を改善することが必要である。

そこで、学級全体としての人間関係を改善する方法としては、個々の欲求不満の解消や楽しさを体験させるために、SGEの技法を用いたエクササイズを用いることにする。エクササイズの中でルールが簡単なゲーム等を事前に行い、学級全体が楽しい雰囲気の中でSSTを行えるようにしていく。

イ SSTとは

「ソーシャルスキル」とは日常の社会生活をうまく送るのに必要な技術のことをいい、SSTはその技術を身に付けるためのトレーニングのことである。

本研究では、話の聞き方・話し方・よさの認め方や問題処理の仕方等の具体的なスキルを身に付け、対人関係における適切な対応について考えさせ、体験させて、日常生活での定着化を図っていく。具体的なスキルを積極的に身に付けられるようにするためには、児童が体験をとおして、生活の中から自らの課題を見つけ、改善しようとする気持ちを高め、五感を使って必要なスキルを身に付けていくことが大切である。その方法として、学級活動で インストラクション（学習すべきスキルの特定、ねらいや方法の理解） モデリング（ロールプレイ） リハーサル フィードバック 次回までの宿題（定着化を図る） という流れを1つのサイクルとしたグループ学習を中心に行っていく。

ウ ソーシャルスキルの定着を図るために

ソーシャルスキルの定着を図るためには、児童自身がその必要性を理解し、トレーニングで学習した行動をしたら、友達との関係がよくなった、上手に話せた、上手に聞いた等の体験や実感が必要である。そこで下記の2つの場を設定し、ソーシャルスキルの定着化を図ることにする。

短学活：学級活動で行ったSSTの内容で簡単にできるものを選択し、朝の会や帰りの会等にショートSSTを取り入れ、繰り返し行うことで定着化を図る。

学級会：学級会での話し合い活動におけるSSTの実践や自己評価・他者評価等を行うことをとおして、より望ましいソーシャルスキルの定着化を図る。

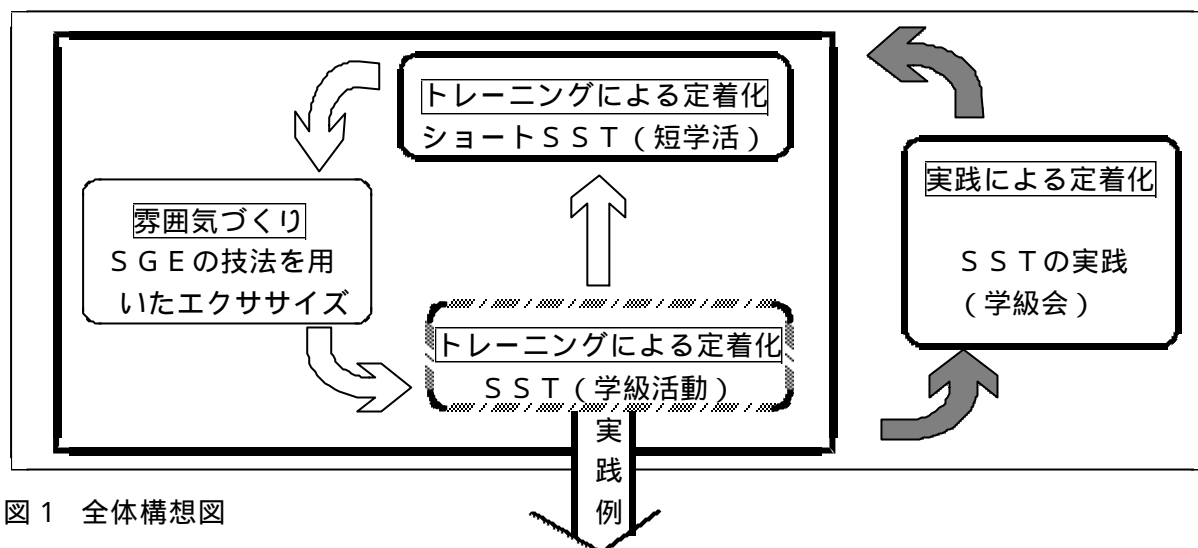


図1 全体構想図

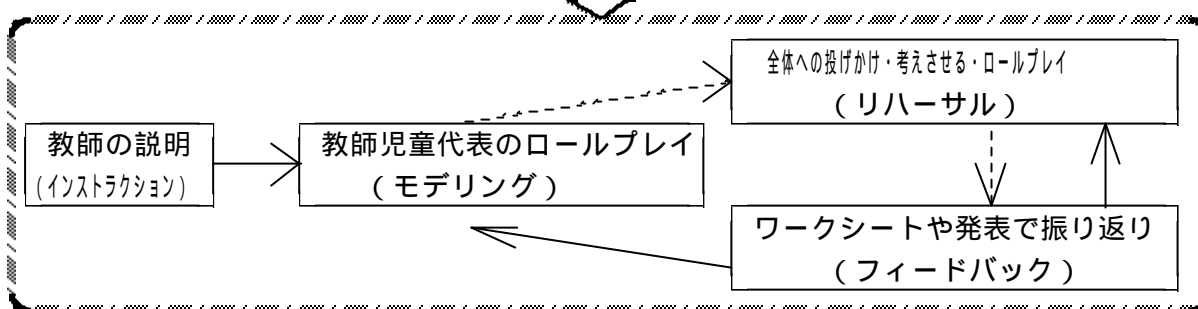


図2 学級活動の実践例

2 研究の方法

(1) 研究の対象 小学校5年生 男子15名 女子18名 計33名

(2) 研究の実施計画

時 期	研 究 内 容	備 考
6～8月	文献研究、実態調査・意識調査の実施と分析	
9・11月	学級活動 基本的なソーシャルスキル 「具体的なS S T」 あいさつ 「あいさつリレー」 自己紹介 「自己紹介をしよう」 学 級 会 (話し合い活動)	*楽しい学級の雰囲気をつくるために、各学級活動前にSGEのエクササイズを行う。 *朝の会帰りの会で、ショートS S Tを行いソーシャルスキルの定着化を図る。
	授業 学級活動 上手な聞き方 「そうだねゲーム」元気での聞き方 質問 「教えてください」 学 級 会 (話し合い活動)	
	実践 学級活動 あたたかい言葉かけ 「あたたかい言葉シャワー」「いいところさがし」 気持ちをわかって 「友達増やそう大作戦」 学 級 会 (話し合い活動)	
	学級活動 上手な頼み方 「わたしお願い」 上手な断り方 「上手な断り方」 学 級 会 (話し合い活動)	
	学級活動 トラブルの解決策を考える 「解決策がいっぱいあるよ」 学 級 会 (話し合い活動)	
	実態調査・意識調査の実施と分析	
	12月 検証とまとめ	

(3) 研究の有効性の吟味

以下の観点で研究の有効性を確かめる。

観 点	方 法
○ 互いを認め合う学級の雰囲気できたか。 ○ 相手のことを考えた聞き方、話し方ができるようになったか。 ○ 自分の考えを進んで言えるようになったか。	○ 担任観察 ○ 学級満足度尺度の変容 ○ 振り返り用紙（ワークシート）の記述 ○ 学級会に関する実態調査の変容

実践の概要

実践の概要は以下のとおりである。SSTを中心に主な活動について記す。

<実践初期：友達同士の結びつきが希薄で、学級会での発言が消極的な時期>

6月10日（月）学級活動でSGE実施（ネイチャーゲーム・なんでもバスケット）
 7月10日（水）学級活動でSGE実施（ビンゴゲーム・ジャンケンゲーム）
 9月 2日（月）学級活動でエクササイズ実施（背中合わせの会話）

実施日：9月3日（火） 具体的なSST：あいさつりレー・自己紹介をしよう		
活動内容	実践の結果（児童の発言・様子・振り返り用紙）	研究者の支援
○ あいさつりレー 8～9人グループ。	○ 初めは声が小さかったが、慣れてくると大きな声であいさつをする男子が増えた。	○ 気持ちのよいあいさつの仕方について考えさせた。
○ 自己紹介をしよう 4～5人グループ。 夏休みの話を取り入れた自己紹介。	○ 声の小さい児童が指摘を受ける場面もあった。 ○ 振り返り用紙には「友達の夏休みの様子が分かってよかった」「声は大きい方がいい」「難しかった」等があった。	○ 自分のことについてワークシートに記入させてから始めた。
担任：SSTに慣れていない様子で戸惑いがみられ、自分の声が小さいことに気付かず、友 観察：達にそれを指摘されてもなかなか大きな声が出ない児童が見られた。		

短学活のショートSST：1分間に何人あいさつできるかな・30秒スピーチ

9月4日（水）	議 題	進んで発言した児童（％）
学 級 会	7・8月の生活の反省、9月の学級生活具体目標	30.3％
担任観察	2学期始めのせいか児童同士の関わりが薄く、発言が消極的であった。	

<実践中期：友達同士の関わりが増し、学級会で進んで発言できる児童が増えてきた時期>

10月7日（月）学級活動でエクササイズ実施（何でもバスケット）
 10月9日（水）朝行事でエクササイズ実施（へびジャンケン）

実施日：10月9日（水）実践したSST：友達増やそう大作戦		
活動内容	実践の結果（児童の発言・様子・振り返り用紙）	研究者の支援
○ 色々な場面での言葉かけについて紙に	○ 自分の身近なことへの言葉かけだったので、自分に置きかえて考えていた児童もいた。	○ インストラクションをしっかりと行

書いた後、4～5人グループでロールプレイ実施。	○ ロールプレイで盛り上がり、様々な状況を設定して演じるグループもあり、振り返り場面では「もう一度やりたい。」という児童が多かった。 ○ 振り返り用紙には、「結構簡単で楽しかった」「よく考えてから言った方がいい」「あたたかい言葉をかけられたらとてもうれしいことが分かりました」「言われる言葉がよかった」等があった。	い劇に入らせた。 ○ 「私も + 感情語」を入れて言葉をかけることを確認し板書しておいた。
担任観察	男子5人グループが繰り返し練習の中で他児童のモデルとなり、ロールプレイがスムーズにできたグループが多かった。身近な状況を細かく考え、ジェスチャーを入れた様々なあたたかい言葉かけがあったが、セリフをメモすることに夢中になり、言葉や演技は明確だが感情のこもっていないロールプレイをするグループもあった。	

短学活のショートSST | いいところさがし、友達増やそう

11月6日(水)	議 題	進んで発言した児童(%)
学 級 会	10月の生活の反省、11月の学級生活具体目標	87.1%
担任観察	時間はかかるが、自分の意見を進んで言える児童が増えた。	

<実践後期：学級内の信頼関係が増し、学級会での発言が活発になってきた時期>

11月11日(月) 帰りの会でエクササイズ実施 (いいところさがしジャンケン)
 11月12日(火) 帰りの会でエクササイズ実施 (仲間づくりゲーム)

実施日	実践したSST	解決策がいっぱいあるよ
11月13日(水)	活動内容 ○ 「問題の解決策」について考えワークシートに書いた後、3～6人グループでロールプレイを実施。 実践の結果(児童の発言・様子・振り返り用紙) ○ エクササイズの手順を始めに確認したが、グループでの話し合いやロールプレイで、再確認をしていた児童が多かった。 ○ 全体の流れ・役割やセリフ等について、友達との意見の違いから、どれがふさわしいかロールプレイをしながら話し合うグループもあった。 ○ 振り返り用紙に、「楽しいが解決策を考えるのは大変」「解決策は色々ある」「今度は自分で解決したい」「解決できてうれしかった」等があった。	研究者の支援 ○ 本時の流れをスムーズにするために、事前に問題文を配って自分なりの解決方法を書かせておいた。 ○ 児童の実態を考慮し、実際に起きた問題を扱った。
担任観察	リハーサルでは、問題解決の方法以外にも児童が様々な背景を考えてロールプレイの練習を活発にできるようになった。そのため、練習時間が足りなくなるグループも少なくなかった。1グループの演技時間も長くなり、次の時間や帰りの会・朝の会で順番に発表することになった。	

短学活のショートSST | いいところさがし、解決策がいっぱいあるよ

11月21日(木)	議 題	進んで発言した児童(%)
学 級 会	よりよい学級にしよう(学級の問題を解決しよう)	90.9%
担任観察	聞く態度もよくなり、自分の考えを進んで発表しようとする児童が増えた。	

実践の結果と考察

1 学級満足度尺度から

<実践初期（6月～9月）>

承認得点が比較的高い児童が多い。また侵害得点は高いが被侵害得点も高い侵害行為認知群に属する児童も多い。このため、身近なことから相手の気持ちを考えて行動できるようになるために、上手な話し方・聞き方のSSTを実施した。

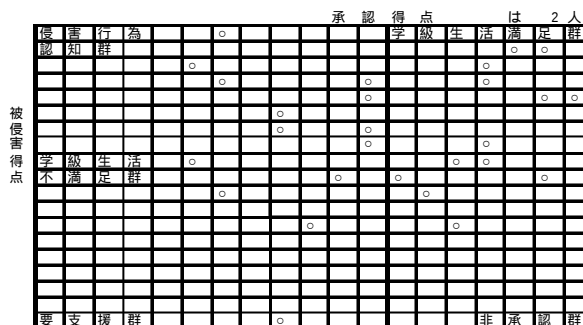


図3 6月の学級満足度尺度の結果

<実践中期（10月）>

侵害行為認知群に属する割合が減り学級生活満足群の割合が増えた。しかし学校生活不満足群の割合は変わらず、承認得点の低い児童や被侵害得点の高い児童が数人いる。このため、自尊感情を高めるSSTを多く行うことにした。

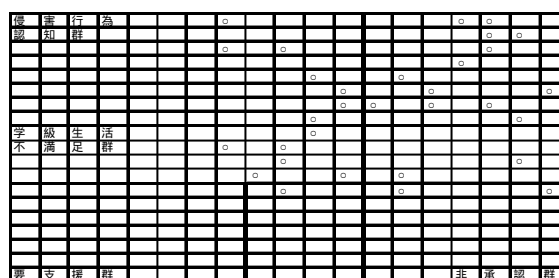


図4 10月の学級満足度尺度の結果

<実践後期（11月）>

承認得点の上昇、被侵害得点の減少が見られ学級生活満足群の割合が増えた。また学級生活不満足群から侵害行為認知群に移行した児童もいる。学級生活に満足できる児童が更に増えるために、望ましい学級のルールが確立できるようなSSTを行っていきたい。

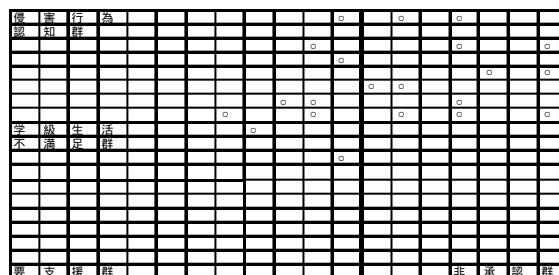


図5 11月の学級満足度尺度の結果

2 担任観察から

<実践初期（6月～9月）>

物事に意欲的に取り組もうとする児童が多いが、友達同士で問題が生じた時、言葉を使って解決するより先に手が出たり論理的でない言い合いをしたりする結果、トラブルを大きくしてしまう児童が少なくなかった。また仲良しグループの中では居心地のよさを感じてまとまるが、学級全体としての関わりが薄くまとまりに欠ける様子がみられた。ささいな言動が原因のトラブルや声の小さい児童が多かったので、相手の気持ちを考えたコミュニケーションの取り方やあいさつを始め人前で声を出すことを意識しながら行っていく必要があった。

<実践中期（10月）>

仲良しグループ以外での児童一人一人の関わりが増し、運動会練習では学級としてまとまりのある頑張りが見られた。言語を用いたコミュニケーションが苦手だった児童も、他の児童と会話を楽しめる場面が増えた。友達と関わるのが消極的だった児童も、遊び等で自ら関わりをもてるようになった。全体的に話し合い易い雰囲気が高まってきたが、自分の考えに自信のない児童が多かったので「いいところさがし」等の自尊感情が高まるようなショートSSTを数多く取り入れた。また、友達とロールプレイをすぐにできるような関係は築かれていないため、短学活で互いに喜びや楽しみを感じながら信頼関係を増すショートSSTを行った。

<実践後期（１１月）>

人前で演技することに慣れてきたので児童のモデリングが効果的に使えるようになった。大きなトラブル以外は自分たちで問題を解決できるようになった。他の教員から「最近学級全体が意欲的で明るくなった。特に男子が成長しまとまってきた。」という話を聞く。保護者からも「この頃男子が誘い合って公園とかで野球をして遊んでいる。」等を聞く。今後は学級のルールの確立を重視したＳＳＴ等を多く取り入れ、よりよい学級づくりを目指したい。

３ 学級会に関する実態調査から

（３３人調査実施）

図６からも分かるように、学級全体の話し合いをする雰囲気がよくなり、自分の意見を進んで言える児童が増えた。これらは、ＳＳＴの実践をとおして、友達同士の関わりが増し、自己表現する方法が身に付いてきた結果と考えられる。しかし、自己表現が苦手な児童もまだいるので、ＳＳＴを継続的に行い、自分の意見を言う力を付けていくことが必要である。

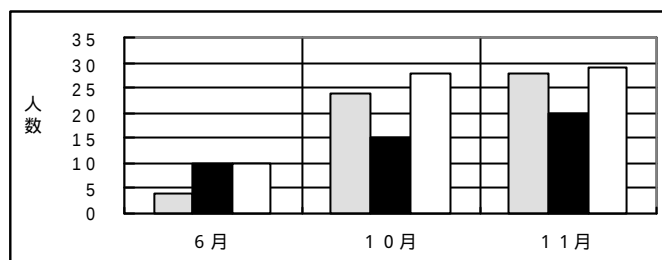


図６ 学級会に関する実態調査の結果

注：グラフの詳細
■ この学級は話し合いをし易い雰囲気である
■ みんなの前で自分の意見を進んで言える
■ 4～5人グループで自分の意見を進んで言える

まとめと今後の課題

本研究において学級活動を中心としたＳＳＴを繰り返し行った結果、児童が対人関係を円滑にするスキルを身に付けることができ、ささいなことでのトラブルが減った。

実践後期には、ＳＳＴをとおして、ソーシャルスキルを身に付け友達同士の関わりが増した結果、学級活動では児童自身がモデルとなり、話し合いながらロールプレイできる雰囲気ができた。また、学級会では、個々の考え方の相違を理解し、話したり聞いたりできるようになった。そして、互いのことを認め合う雰囲気が生まれ、進んで意見を言える児童が増えて、話し合い活動が活発に行われるようになった。

これらのことから、ＳＳＴをとおして社会生活に必要なスキルを身に付けることは、激しく変動する現代社会に対応していく生きる力を養うことにもつながり、不登校問題等が取りざたされる昨今、学校現場ですぐに活用でき、役立てられる方法の一つではないかと感じた。

今後の課題は、本学級には生活上のルールを守ることが不十分な児童がまだ存在するため、その改善を図っていくことである。そのためには、学級ルールの確立を中心としたＳＳＴを行いながら、皆がルールを守り、互いを大切にし合う学級の雰囲気をつくっていききたい。そして、誰もが信頼し合い、一人一人が安心して意見を出し話し合うことのできる、よりよい学級づくりを目指したい。さらに、この研究が、特別活動を始めとして様々な教科・道徳・学校行事等との連携を図りながら、学校全体における教育相談活動の充実に役立てられるように、今後も研究を積んでいきたい。

<参考文献>

- ・河村 茂雄 編著 『グループ体験による学級育成プログラム』 図書文化(2001)
- ・國分 康孝 監修 『エンカウンターで学級が変わる』ショートエクサイズ集 図書文化(2002)
- ・田中 不二夫 監修 Q-U『実施・解釈ハンドブック』 図書文化(1999)